

令和3年4月5日

報道機関 各位

東北大学東北アジア研究センター

**身分を超えた剣術の世界：江戸時代
『出羽国の庶民剣士—武田軍太「武元流剣術実録」の世界』
を出版**

【発表のポイント】

- ・ 江戸時代は「士農工商」という厳しい身分制度があり、武術は武士だけの特権だと理解されてきました。
- ・ 当時の歴史資料を解読すると、多くの百姓たちが剣術をならい、地域のなかに文化として定着したことがわかります。
- ・ 本書では、百姓出身の武田軍太が書いた記録を紹介し、身分を超えた剣士たちの世界を明らかにしています。

【概要】

著者の平川新は、これまで、関東に多数の庶民剣士が存在したことを明らかにしてきました。本書で紹介した武田軍太著の「武元流剣術実録」は、出羽国にも庶民剣士が多数存在したことを証明し、江戸時代の身分制を理解するための一級史料です。

武田軍太は、百姓身分ながら剣術で身を起し、文化13(1815)年に高島藩の剣術師範となりました。武士の門人は同藩のほか、米沢藩士と仙台藩士も確認できます。庶民の門人は、軍太の本拠である高島周辺および天童近在村々の農民たちで、およそ500人近くを数え、剣術が在村文化として広く定着していたことがわかります。

【問い合わせ先】

東北大学東北アジア研究センター

担当 荒武賢一郎 野本禎司

電話 022-795-3140 022-795-3196

E-mail uehiro@grp.tohoku.ac.jp

【詳細】

1. 書誌情報

書名:出羽国の庶民剣士—武田軍太「武元流剣術実録」の世界—

編著者:平川新(東北大学名誉教授)

発行:東北大学東北アジア研究センター

(東北大学東北アジア研究センター叢書第 68 号)

判型:B5 版 318 ページ 非売品

ISBN:978-4-908203-21-3

☆全文 PDF ファイル ダウンロード可能

東北大学機関リポジトリ TOUR <http://hdl.handle.net/10097/00130818>

東北大学東北アジア研究センター上廣歴史資料学研究部門ホームページ

<https://uehiro-tohoku.net/works/2020/2464.html>



2. 目次

論説編

第一章 庶民剣士論の展開へ

- 一 幕末の剣士たち
- 二 庶民武芸は禁止されていなかった
- 三 庶民剣士論の提起
- 四 出羽国村山郡の庶民剣士たち

第二章 武田軍太「武元流劍術実録」の世界

- 一 劍術好きな少年から藩の師範へ
- 二 武田家と劍術道場
- 三 劍術道具と劍術道場の実態
- 四 武田軍太の劍術
- 五 武田軍太の門人たち
- 六 庶民劍術と領主の対応

第三章 武田孫平治「略日記」の世界

- 一 織田家の高島入封
- 二 武田家の家普請
- 三 天明の飢饉について
- 四 寛政期以降の主な記事
- 五 江戸の人口について
- 六 ロシア使節ラクスマン来航と「武具買人」

史料編

- 1 武田軍太「武元流劍術実録」
- 2 武田軍太「武術修行人之御姓名并口上書」
- 3 心地流及び武元流の兵法書・印可書
- 4 武田盈春(孫平治)「略日記」
- 5 嘉永二年一二月武田軍太顕彰碑(安久津八幡神社)